

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【5月6月度の御金言】今は我が身に過あらじ。或いは命に及ぼんとし、弘長には伊豆の国、文永には佐渡の島、諫暁再三に及べば留難重畳せり。「仏法中怨」の誠責をも身にははや免れぬらん。

【四条金吾殿御返事】（全集1193頁）

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。（信心）
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。（行学）
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。（破邪顕正）
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。（示教利喜）
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

口で【南無妙法蓮華經】と唱える時は、心でも同時一緒に【南無妙法蓮華經】と唱えなければ【南無妙法蓮華經】と唱えたことにはならない。口で【南無妙法蓮華經】と唱えながら心は違う事を考えていたら口だけのカラ題目ですと、当たり前を何度も話してきました。その事に対して今までに6人の御信者さんから感じた思いが寄せられました。同じ様な内容になりますので、代表的な意見をパターンに分けて要約して並べると。

Aさんの感想

50年前に創価学会を縁に入信してから、そんな事初めて聞いて驚いた。50年間私はほとんどカラ題目を唱えて来たんだと残念な気持ちになったけれども、これから老い先短いけれども、口も心も一緒に【南無妙法蓮華經】と唱える当たりの本当の御題目を唱えて行こうと思います。

Bさんの感想

私は、入信当初は、御題目を唱えると次から次に雑念が湧いて来て、御題目を唱えない方が雑念が湧かないっておかしいんじゃないかと悩みました。しかし、創価学会の幹部の人達が幸せになりたかったら御題目を唱えろ御題目を唱えろというので、お願い事を書き出して目の前の御経机の上に置いて（仏壇の中に入れていた人もいましたが、さすがにそれはおこがましいなと思いませんでした）座談会の会場の家の仏壇には、【池田先生の御健康】まで書いてあったので、自分もしないとまともな学会員と思われたいのではないかと一番目に書いて、次に家族の健康、商売繁盛という順で箇条書きに書き出しました。そうすると、それが雑念では無く崇高な信心の純粋な思いだと感じ、御題目を唱えながら、願い事を順繰り順繰り頭の中で巡りながら唱えるのが当たり前になり、雑念の海に浮かび

漂うよう事がむしろ楽しい様な気持ちになっていました。雑念が起きるのは凡夫だから当然の事だと思ふようになりました。その雑念の中で良い考えが浮かぶと、これは御題目を唱えた功德だ、御仏智を頂いたんだ、御本尊様ありがとうございます。御題目を唱えながら浮かんだ考えだから絶対に正しいに決まっているんだ。こうして朝夕の勤行をしたりしなかったりさぼりながらのいい加減な信心でも、困った事があれば御題目が足りないからだと、又御題目を唱えて、御題目はすごいなあと思ひながらやって来ました。口で南無妙法蓮華経と唱えながら心は違う事を考えるのが自然で当たり前、自分にとっていやな思いは雑念、良い思いは雑念では無く功德だと思ひ込み、むしろ楽しんでやって来ました。住職の話聞いて、どうしたら良いのか呆然としています。もう御題目を唱えるのが嫌になりました。

Cさんの感想

本当に住職の言う通りだと思ひました。人間革命、宿命転換、宿業を断ち切る、公明党の立候補者が当選しますようにと念じて念じて念じながら御題目を唱える事こそが唱題だと思ひ込んできました。しかし、自分の願い事を念じることが念じるではなく南無妙法蓮華経を念じることが真実の念じるという事が、はあはあ、そういう事だったのかと心にストーンと落ちて納得出来ました。今まで何をしてきたのだろうとという絶望感むなしさがありますが、生きている内気付いて訂正出来て、死ぬまで口で南無妙法蓮華経、心で南無妙法蓮華経の本当の正しい御題目を唱えて行こうと思ひます。

唱題は自他共に妙法聞法の縁となり、全ての生命の根本に具わる南無妙法蓮華経の仏の生命に凡愚な我々凡夫でも南無妙法蓮華経と何度も呼び掛け、自分にも他人にも仏の生命が具わっているんだと縁せしめる事によって、かすかに暖かく仏の生命を感じる事が出来るのであります。一度の縁で南無妙法蓮華経を信じる人もいれば百度の縁でも南無妙法蓮華経を信じる事が出来ない人もいます。しかし百度蒔いた南無妙法蓮華経の縁は一つも無駄なく雨のように無差別に全ての生命に南無妙法蓮華経の縁を平等に伝えて潤いを与えて行きます。これこそが御題目を唱える本当の意味、本当の尊さであります。雑念が湧くという事は、心が南無妙法蓮華経と唱えていないのであります。心が唱えていなければ雑念は次から次にこれでもかと押し寄せてきます。その押し寄せてくる雑念を無くすには、心で南無妙法蓮華経を唱えれば雑念は無くなります。雑念が湧いたら唱題をやめてしまうのではなく、ああ自分は心から南無妙法蓮華経と唱えていなかったなと反省し、又改めて口も心も一緒に南無妙法蓮華経と唱えて下さい。必ず雑念は無くなります。

口も心も一緒に南無妙法蓮華経と唱える事こそ本当の日蓮大聖人が言われる【余事余念無く南無妙法蓮華経】の唱題であります。

私が小僧の時から大石寺で教え込まれてしまった【戒壇の本尊絶対】【血脈法水絶対】の間違った考え方は、私は爾前迹門の教えだったんだと考えています。御信者さんも創価学会から教え込まれてしまった、【現世利益】【御題目を唱えて願いを叶えよう】の間違った考え方も、爾前迹門の教えだったんだと考え、その間違いを踏み台にして、本当の日蓮大聖人の法を求める反面教師のエネルギーにして頂きたいと思ひます。お互いに洗脳教育を受けてしまった過去の事実を無くす事は出来ないのですから【変毒為薬】して行かなければいけないと思ひます。